

研究機関：広島大学

研究課題名 パーキンソン病・パーキンソン症候群患者の入院調査：入院理由、リハ実施状況について

研究責任者名 広島大学大学院医歯薬保健学研究院脳神経内科学 教授 丸山 博文

研究期間 平成 29 年 4 月 5 日(倫理委員会承認後)～ 平成 31 年 9 月 30 日

#### 対象者

倫理委員会承認後から平成 31 年 3 月 31 日の間に、本院脳神経内科に入院したパーキンソン病・パーキンソン症候群の患者。

#### 意義・目的

パーキンソン病・パーキンソン症候群（以下、PD）では、症状の進行とともに、廃用症候群が重複し、運動障害の治療（薬物調整、リハビリ、脳深部刺激療法など）、合併症の治療（誤嚥性肺炎、精神症状、骨折、感染症など）のための入院治療が必要となります。海外からの報告では、PD では一般人口と比べると入院頻度が高く、在院日数が長く、入院理由は運動障害よりも合併症が多いとされていますが、本邦ではPD患者の入院の実態についての報告は少なくよく知られていません。

また、PDではリハビリ治療が有効で、日本神経学会のガイドラインで推奨されています。しかし、専門施設に入院してリハビリを受けたことがあるPD患者は全体のごく一部であり、PDに対する適切なリハビリ介入を検討するためには、多施設での実態調査が必要です。

今回、入院理由別に転帰や医療コストを比較し、効率の良いリハビリ介入について検討するために、この研究を計画しました。

#### 方法

本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。

カルテから使用する内容は年齢、性別、生年月、住所（区まで）、入院理由、病名、主病名、入院経路（自宅、病院、施設、救急搬送など・・・）、紹介元（医院、病院、施設など）、入院年月日、退院年月日、在院日数、

入院期間中の治療内容：手術、薬物、リハビリ単位数、ボトックス、装具作成

入退院時の変化：看護必要度、身体機能の評価、

コスト：総診療点数、医療費、

退院経路（自宅、病院、施設など）、転帰、

パーキンソン病の生活機能障害度、重症度（ヤール分類）、介護保険の有無・介護度、身障手帳等級です。

（個人を特定可能な情報は解析に用いません）

#### 共同研究機関

広島市立リハビリテーション病院（主施設）、

広島市立広島市民病院、広島市立安佐市民病院。

広島市立リハビリテーション病院に情報を集め解析します。

